

メロン (ウリ科)												
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
植えつけ				収穫								

ニューメロン

〔露地ネットメロン〕サンライズ

栽培ポイント

メロンは生育適温が高く、乾燥を好むので、トンネルを利用した雨よけ栽培をします。

土は特に選びませんが、根の酸素要求が高いので、有機質を含んだ、水はけのよい砂質土なら、よいものができます。畑には、1㎡あたり1握りの苦土石灰を施し、よく耕しておきます。

苗作りは手間がかかるので、4月下旬～5月上旬に、本葉3～4枚くらいの接ぎ木苗を求めて植えます。本葉5～6枚になったころ、親づるの先端を摘芯して子づるを出させ、元気のよい子づるを2～3本残し、この子づるから出る孫づるに、実をならせます。

結実を促進するためには、人工交配やホルモン処理を行います。果実は、1本の子づるに3～5個着果させ、形のよいものを1本につき2～3個残して、ほかは摘果します。なお、ネット型メロンは1株に2～3個着果させます。

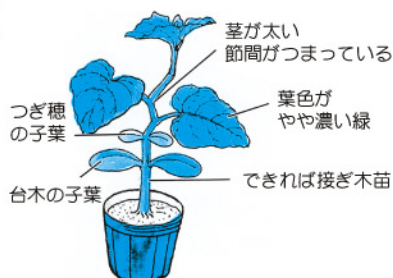
収穫は、開花後35～40日くらいが目安です。摘果した幼果は、漬け物に利用します。

栄養

露地メロンは、ビタミンC、カロチンなどが豊富です。味のよいメロンは糖度が15%以上です。甘みは、果実の外側より内側、へたのほうより花落ち部にゆくほど強くなります。

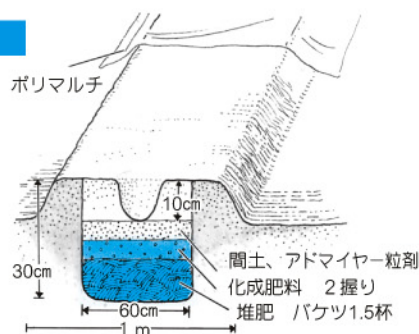
1 苗の選び方

4月下旬～5月上旬に、本葉3～4枚の苗を購入する。節間が間伸びした軟弱な苗は、側枝（子づる、孫づる）が発生しにくいので、しっかりしたよい苗を選ぶ。できれば接ぎ木苗が最良。



2 畝作り

苦土石灰を施して耕しておいた畑に、深い溝を掘り、元肥を施して土を戻し、高畝にして、ポリマルチを敷く。

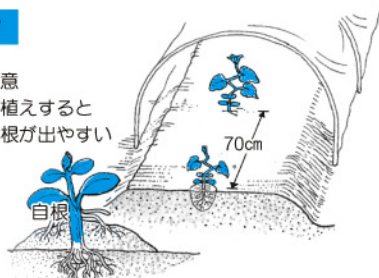


3 苗の植えつけ

1週間後に苗を植える。苗鉢に十分に水をやってから、根土をくずさないように抜いて、畝に植える。深植えすると、根が傷んだり、接ぎ穂から自根が発生して、接ぎ木の意味がなくなり、病気の発生の原因になる。

注意

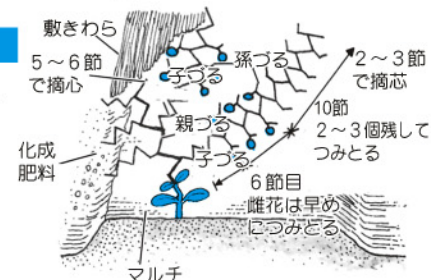
深植えすると自根が出やすい



4 整枝・追肥

つるが伸びるにつれて、敷きわらをする。親づるは摘芯し、残した子づるは22～23節まで伸ばして摘心。6～10節目から出る孫づるに結実させる。

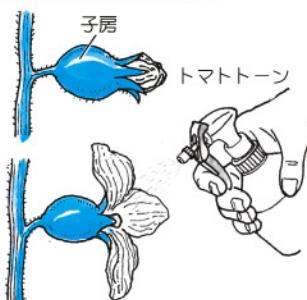
追肥は結実後10日ごろに、1株につき軽く1握りの化成肥料を、ポリマルチの両側にばらまく。



5 結果の促進（ホルモン処理）

○開花前日は子房に噴霧する

雌花が確実に結実するように、人工受粉（スイカと同様に行う）か、ホルモン処理をする。ホルモン処理は、トマトトーン100倍液を霧吹きでスプレーする。



○開花当日は柱頭に噴霧する

6 収穫

収穫間近になると、葉の縁枯れが始まり、完熟が近づくと葉全体に黄化現象を起こす。プリンスメロンなどは、果柄のつけ根にわずかな離層ができ始め、へたがとれやすくなる。

主な病害虫

◆病気 つる割れ病、つる枯れ病、うどんこ病、ウイルス病
◆害虫 アブラムシ

